



# 元気っ子

No.276 ながさわ保育園

園長 中瀬 弦 偉

8月になりました。今年は梅雨が長く続き、ここ東海地方では梅雨らしい梅雨になりましたが、九州地方や東北地方では梅雨前線に伴う河川の氾濫という甚大な被害をもたらしました。被害に遭われた方々には心よりお見舞いを申し上げます。

新型コロナウイルス感染拡大が一度は政府の発令した緊急事態宣言によって縮小傾向にありましたが、ここ最近また急速に広がりつつあります。感染拡大の収束が見えない中、日経新聞に「教育改革」についての記事がありました。保育についても考えさせられる部分もあったのですが、日本のデジタル対応は世界から20年遅れているということです。コロナ禍において世界各国でも日本と同様に休校措置がとられていました。しかしふたを開けてみれば、欧米諸国は休校期間中もオンラインで授業を行い、本当に学習を止めてしまっていたのは日本だけだったと紹介されています。つまり、欧米において、新型コロナウイルス感染拡大以前からデジタル端末は文房具の一つとして早くから整備されていたのですが、日本ではその捉え方が「遊び道具」だったため、学校教育への導入が遅れてしまったのです。このことが明るみに出て、日本も一人一台の端末配備を目標に掲げたのですが、学校が再開した途端に全てが対面式に戻ってしまい、オンライン指導をやめてしまいました。

また、この休校期間中において学校カリキュラムのグローバル化として9月入学についても議論がされました。日本では同年齢の子を一斉に入学・卒業させる「履修主義」をとっています。そのため、9月入学への移行はとても困難になります。それに対して欧米では一人一人に応じた学びを保障し、目標の達成に応じて進級を決める「修得主義」を掲げ、飛び級や留年も本人や保護者が決められます。これを保育の世界に置き換えて言うならば、3・4・5歳の三年間で卒園出来る姿にもっていく異年齢保育は「修得主義」になります。3歳児でもたくさん文字が読めるなら5歳児が読むような本を読んでもいいですし（飛び級）、5歳児でもハサミの使い方が苦手なら直線切りから練習すればいい（留年）と思います。一方で、これを生年月日で区切った保育で9月入学への移行をさせていこうとすると年長児は4月から8月のたった5カ月間で様々なことを修得しなくてはなりません。逆にそれをカバーするために、年中児の8月を卒園としてしまうと、今度は年長児の9月から3月生まれの子は何もしないまま2年生になってしまいます。

異年齢児集団保育では、子ども同士の関わり合いの中から、思いやりや多様な人間関係が育つメリットはとても大きいと思いますと同時に、グローバル教育への足掛かりとしてもとても大きな役割を担っていると思います。

保育の世界においては対面式でないといけないことがほとんどではありますが、（それゆえにAIが踏み込めない領域）それでも社会のグローバル化を見据えるならば、デジタル端末を道具の一つとして活用することはコロナ禍を契機にしっかりと考えていかななくてはならないと思います。

